

## トルコ 今の天候はサクランボの栽培に最適

[FreshPlaza 2024年4月19日](#)

トルコの青果物輸出業者アナフルーツ社の営業担当者であるメルト・エズジェリク氏は、トルコの天候はサクランボの栽培に最適だとして、「天候は通常の予想の範囲内であり、現在の天候は実際サクランボの栽培に最適である。サクランボは、開花から収穫時期まで摂氏15～25度の気温が必要である。今のところ天候はこの範囲内にあるので、非常に満足している」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

近年、サクランボの輸出業者は、サクランボの出荷シーズンが始まる前から対処しなければならない問題が増えていると、同氏は説明する。「今年のシーズン前にはこれまで大きな問題がなかった。現状ではすべてが大変ポジティブに見える。ここ数年、サクランボのシーズンが始まる前から、収穫前の大雨など、大きな課題に対処しなければならなかった。収穫前の雨はサクランボに亀裂を生じさせ、品質にかなりの悪影響を及ぼすため、良好な年に比べて輸出量が大幅に減少する」。

同氏は、同社がサクランボの輸送に紅海ルートを利用していないため、今シーズン、アジア市場にサクランボを輸出する場合であっても問題はないと強調する。「弊社の主要な輸出先はヨーロッパ市場であり、陸上輸送するため紅海の状況は影響しない。また、アジア、東南アジア、アフリカ、中東諸国向けでは、サクランボを航空貨物で送ることが多い。このように、弊社は紅海ルートを使用していないので、紅海の状況はサクランボの出荷シーズンに影響しないと見ている。」

エズジェリク氏によると、同社による生産者への指導が功を奏し、サクランボの農薬残留レベルが大幅に改善された。「2月中旬から、弊社の農産部門はトルコ全土のサクランボ生産者との会合を行っている。彼らは、サクランボをより効率的かつより良い品質になるように栽培し、農薬の残留をヨーロッパで要求される基準値以下に保つ方法について生産者に周知している。」

今後について、同氏は今シーズン、アジアとアフリカの市場での拡大を望んでいる。「今のところ需要が少ないアフリカとアジアの一部の市場への輸出量を増やしたいと考えている。これらの地域でビジネスを拡大することは我々にとって素晴らしいことであり、新しいシーズンがその機会を提供してくれることを願っている。また、今シーズンが昨年よりも良いものになることを願っており、今のところの兆候は有望である。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(訳注: 翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません)

## 南半球の2024年の柑橘類輸出量は7.45%増の予測

[FreshPlaza 2024年4月19日](#)

世界柑橘類機関(WCO)の年次総会で、アルゼンチン、オーストラリア、ボリビア、ブラジル、チリ、ペルー、南アフリカ、ウルグアイの柑橘類部門の代表者に対し、これから始まる南半球の柑橘類シーズンの暫定予測が提示された。柑橘類の総生産量は前年比0.77%減の2,433万8,123トンと予想されている。一方、輸出量は引き続き増加し、2023年と比較して7.45%増の415万6,879トンと予測されている。

WCO加盟国は、2024年4月18日の第5回年次総会(AGM)に集まった。同年次総会でWCOは、南半球の2024年柑橘類シーズンの生産量と輸出量の予測に関する集計データを発表した。

暫定予測は、アルゼンチン、オーストラリア、ボリビア、ブラジル、チリ、ペルー、南アフリカ及びウルグアイのWCOメンバー(生産・輸出業者の団体等)の協力により収集された。さらに、今後2年間の活動を主導する新しい運営委員会を選出し、初のリーダーシップの交代を行った。

オレンジの生産量は、2023年と比較して5.66%減となる合計1,547万8,167トンと予測されている。ソフト柑橘類の生産量は大幅に増加する(+11.58%、合計332万5,829トン)ものと予想される。レモンは5.69%増(合計324万4,857トン)と予測されるが、グレープフルーツは3.89%の減少(合計53万2,539トン)が見込まれている。ライムは、2023年の数値を10.57%上回る175万6,731トンと予測されている。(以下省略)